

平成27年度長崎県立諫早東特別支援学校 学校評価報告

1 保護者アンケートにおける評価及び考察

(1) 評価

- 全ての項目で「3.0」以上の高い評価を受けている。特に昨年度評価が低かった「育友会活動」の項目についても、今年度は評価が上がっている。今後も家庭と連携しながら教育活動の充実や学力向上に取り組んでいきたい。
- 昨年度と比べて評価が下がった項目は、項目8「個別の教育支援計画活用」であった。個別の教育支援計画を連携ツールとした目標や課題の共有が十分であるか、再度運用等について検討する必要がある。また、全体の数値は上がったが、複数の項目において「0：わからない」の評価をした保護者が多かった。とくに項目6「教師の専門性」や項目12「命の教育」、項目19「防災教育」に関する項目において「わからない」の評価が多かった。項目23「育友会活動」についても数値は上がったが、「わからない」と回答したのが9名で、半数近くの保護者が育友会活動について把握できていないことがわかる。

(2) 考察

- 「個別の教育支援計画」の活用については、多くの職員も課題があると考えている。次年度は諫早市共通の様式を使用する予定なので、新たな様式の説明や運用マニュアルの見直し、保護者説明などについて、学校全体で取り組む予定である。全職員が保護者への説明を十分行い、目標や課題を共有することに努めたい。
- 「防災計画」については、今年度計画的に避難訓練を実施し、その様子をホームページでも伝えてきたが、昨年度と同様、内容等について把握していない保護者が多かった。「育友会活動」の周知についても同様の課題があるため、活動に対する理解啓発や情報伝達の方法について、再度検討していきたい。

2 児童生徒アンケートにおける評価及び考察

(1) 小学部

- ほとんどの項目で高い評価を受けており、特に項目2「学校は安心して勉強ができる。」と項目11「先生はわかりやすく教えてくれる。」、項目12「先生は話やなやみをよく聞いてくれる」については、ほとんどの児童が「4」の評価だった。教師と児童の信頼関係により高い評価につながっていると考ええる。
- 項目15の「学校の教室やトイレは安全で使いやすい」については昨年度より評価がかなり上がっており、昨年度トイレの改修を行ったり、日ごろからの清掃に努めたりしていることの成果であると考ええる。
- 昨年度の課題であった項目4「ICT機器の活用」については、まだ数値は低いですが、昨年度よりも評価が上がっている。今年度からiPadに加えて、電子黒板も配置があり、授業での活用が増えてきていることの成果であると考ええる。
- 項目17、18「図書室の利用」については昨年度より評価が下がっている。ただ、

数値自体は「3」以上であるため、今後も継続して多くの児童への読書活動を促す必要がある。

- 項目7、19の「あいさつ」については、どちらも昨年度より評価が下がっている。定期的に「あいさつ運動」を実施しているが、生徒会が中心であり、学校全体の取り組みにはつながっていないことが考えられる。一部の児童生徒だけでなく、学校全体で「あいさつ運動」に取り組めるような働きかけが必要であると考えられる。

(2) 中学部

- 項目1「学校に行くのが楽しい。」や項目8、21「あいさつ」、項目11「言葉づかい」については、昨年度より評価が上がり「3」以上の数値であった。中学部生徒は全体的に対人関係やコミュニケーションに課題があるが、その課題に対して職員だけでなく、生徒自身も改善しようとする意識が高まってきているのではないかと考える。
- 項目5「授業態度」についても昨年度より評価が上がっている。習熟度別授業や補習授業等、生徒の能力や実態に応じた指導に中学部全体で取り組んだことにより、生徒の授業参加への意欲が高まってきたことが考えられる。
- 項目3「家庭学習」については昨年度より評価が下がっている。今年度の生徒の傾向として、これまでの学習空白だけでなく、家庭学習の習慣が身につけていないことも学力低下の原因と考えられる。本人、保護者との面談やセンターとの情報共有により、学習時間の確保に努めてきたが、学習時間の増加や家庭学習の定着までには至らなかったと考える。
- 項目4「ICT機器の活用」についても昨年度より評価が下がっている。今年度はiPadに加えて、電子黒板が配置されたため、徐々に活用が増えているが、まだ全教科、全職員による活用までには至っていない。次年度は研修を深め、全教科の授業において活用できるよう努めたい。

3 職員アンケートにおける評価及び考察

別紙資料

4 学校評議員による評価（学校関係者評価）

(1) 評価の実施期日・場所

①実施期日

平成28年3月3日（木）

②実施場所

諫早東特別支援学校 会議室

(2) 学校関係者評価委員（学校評議員）

氏名	性別	年齢	職業等
種川 啓介	男	67歳	無職（元諫早東特別支援学校長）

(3) 学校の重点目標や自己評価の評価項目について

- 保護者との連携や、いじめ・人権学習の取り組みなどについては、児童生徒、保護者、職員の評価が高く一致している。学校の取り組みが児童生徒や保護者に伝わっている成果だと思う。
- 小中学校から転入する児童生徒について、個別の教育支援計画の様式や運用の見直しをすることで、さらに学校間の連携を深めてほしい。
- センター入院（所）生の保護者に対して、学校の教育活動を周知することは難しいと思うが、全職員で情報発信や理解啓発に努めてほしい。
- 小中学部の職員間でお互いに指導方法や対応を理解し、協力する体制づくりには、部主事等、管理職が調整役として職員に働きかけることが重要である。校内だけでなく、第三者からの視点もふまえた学校づくりに努めてほしい。